萩村邸新築工事

| 図面番号 | 図面名 | 備考 |
|---|---|---|
| S−00 | 構造図リスト | |
| S−01 | 構造共通特記仕様書 | |
| S−02 | 鉄筋コンクリート工事特記仕様書1 | |
| S−03 | 鉄筋コンクリート工事特記仕様書2 | |
| S−04 | 基礎伏図 | |
| S−05 | 1階伏図 | |
| S−06 | 2階伏図 | |
| S−07 | 屋根伏図1 | |
| S−08 | 屋根伏図2 | |
| S−09 | 軸組図1 | |
| S−10 | 軸組図2 | |
| S−11 | 軸組図3 | |
| S−12 | 断面リスト1 | |
| S−13 | 断面リスト2 | |
| S−14 | 架構詳細図 | |
| | | |
| | | |
| | | |

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project: 萩村邸新築工事

The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263

一級建築士: 五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録
第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title: 構造図リスト

Scale:

Drawing No.: S-00

Date: 2026/01/08

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

# 構造共通特記仕様書

## 1 建築物の構造内容 （■印を適用する）

### 1.1 構造種別

地上階：□ 鉄骨鉄筋コンクリート構造　□ 鉄筋コンクリート構造
□ 鉄骨構造　□ プレキャストプレストレストコンクリート構造
□ 木質構造　■ その他（壁式鉄筋コンクリート構造）

地下階：□ 鉄骨鉄筋コンクリート構造　□ 鉄筋コンクリート構造
□ 鉄骨構造　□ プレキャストプレストレストコンクリート構造
□ その他（壁式鉄筋コンクリート構造）

以下、"RC"は現場打ち鉄筋コンクリート、"PC"はプレキャストプレストレストコンクリートを指すものとする

### 1.2 階数

地上：2階
地下：0階

## 2 部材表示記号及び番号

### 2.1 断面番号

XX00
- 00：番号等
- X：添字
- XX：部材記号

部材記号は以下とする

| | | |
|---|---|---|
| C：柱 | W：壁 | ST：階段 |
| G：大梁 | RW：地下耐土圧壁・擁壁 | F：フーチング |
| B：小梁 | S：床版 | P：杭 |
| FG：地中大梁 | FS：礎版・土間スラブ | |
| FB：地中小梁 | DS：デッキプレート床版 | |
| BR：ブレース | DP：デッキプレート | |

## 3 使用構造材料等 （■印を適用する）

### 3.1 プレキャストコンクリート関係

プレキャストコンクリート部材に使用する材料は"プレキャストプレストレストコンクリート工事標準図"による

### 3.2 現場打ちコンクリート

ＪＩＳＡ５３０８によるレディーミクストコンクリートとする
計画供用期間の級：□一般 ■標準 □長期
試験練　：□不要 ■必要（"地上躯体"に用いる配合パターン全て）
但し、ＪＩＳ規格外品となる場合は必要とする
調合管理強度　：Fm=Fq+mSn
ここに、品質基準強度 Fq、構造体強度補正値 mSnを表す
標準養生による供試体の材齢　m=28日とする
構造体コンクリートの材齢　n=91日とする

| 使用箇所 | | 地上躯体 | 基礎 |
|---|---|---|---|
| 種類 | | 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ | 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ |
| 設計基準強度 Fc | N/mm² | 27 | 27 |
| 耐久設計基準強度 Fd | N/mm² | 24 | 24 |
| スランプ | cm | 18 | 15 |
| 細骨材径 | mm | 2.5 | 2.5 |
| 粗骨材径 | mm | 20 | 20 |
| 水セメント比 | % | 55 以下 | 55 以下 |
| 単位セメント量 | kgf/m³ | 300 以上 | 300 以上 |
| 単位水量 | kgf/m³ | 185 以下 | 185 以下 |
| 空気量 | % | 4.5 | 4.5 |

セメントの種類
■ 普通ポルトランドセメント　：ＪＩＳＲ５２１０
□ フライアッシュセメント　：ＪＩＳＲ５２１３のＢ種

※ 防水材を加える場合、単位水量は 175kgf/m³ 未満とする

### 3.3 鉄筋

□ SR 235
■ SD 295A（D16以下）
■ SD 345　（D19~D25）
□ SD 390　（D29以上）
} ＪＩＳＧ３１１２の規格品
■ 溶接金網：ＪＩＳＧ３５５１のＪＩＳマーク表示品

### 3.4 鉄骨関係

A. 鋼材
■ SS 400　：ＪＩＳＧ３１０１の規格品
□ SS 490　：ＪＩＳＧ３１０１の規格品
□ SN 400A　：ＪＩＳＧ３１３６の規格品
□ SN 400B　：ＪＩＳＧ３１３６の規格品
□ SN 490B　：ＪＩＳＧ３１３６の規格品
□ SN 490C　：ＪＩＳＧ３１３６の規格品
□ STKR 400　：ＪＩＳＧ３４６６の規格品
□ STKR 490　：ＪＩＳＧ３４６６の規格品

B. ＰＣ鋼棒
□ SBPR 930／1080
□ SBPR 930／1180
} ＪＩＳＧ３１０９の規格品

C. 鋳鋼品
□ SN400A 相当品
□ SN490B 相当品

D. デッキプレート
□ SDP2　：デッキプレート
□ SDP2G：合成床用デッキプレート
□ SDP2G：セルラデッキプレート
} ＪＩＳＧ３３５２の規格品
□ SPHC　：捨て型枠用デッキプレート　ＪＩＳＧ３１３１の1種に亜鉛めっきを施したもの

E. 高力ボルト
□ S10T：特殊高力ボルト（M16以上）ＪＳＳⅡ09の規格品
□ F10T：六角高力ボルト（M12）　ＪＩＳＢ１１８６の規格品

F. アンカーボルト
■ ＪＩＳＧ３１０１の2種

G. 普通ボルト・スタッドボルト・ドリフトピン
□ ＪＩＳの規格品

H. 耐火被覆
特記仕様書，公共建築工事標準仕様書，建築工事施工監理指針上・下巻による

I. 防錆塗装
意匠図による

### 3.5 基礎

□ A. □ 場所打コンクリート杭　□ 拡底杭　□ 鋼管補強
工法：□ アースドリル工法　□ ベノト工法
□ リバースサーキュレーション工法　□ その他（ＢＨ工法）
材料：3.2 場所打ちコンクリート による
耐力：杭図面による
施工者：（社）日本基礎建築協会の基礎施工士と同等の資格を有する者
試験杭：着工後に、標準貫入試験および試験杭により支持層レベルの確認を行うものとする
超音波孔壁測定：□ 不要　□1ヶ所
試験用の杭は本設用を兼ねてよいものとし、その位置は杭伏図による
標準貫入試験の試験位置は監督員の承諾を得ること
標準貫入試験　：□ 不要　□1ヶ所

□ B. 既製杭
工法：□ セメントミルク　□ アースオーガー併用打撃工法
□ 先端拡大根固め
掘削　：□プレオーガー　□中堀り
杭周固定液：□使用　□不使用
□ その他（イシジプラス工法杭）
認定番号：押込み方向　国土交通大臣認定工法 TACP−0591・0592
引抜き方向　GBRC 性能証明 第19−11号 改

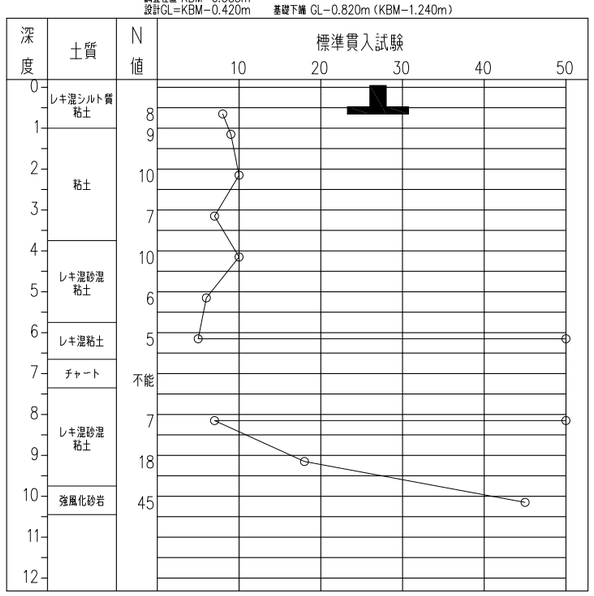
材料：□ PHC（A，B，C種）　□ その他（STK490）
耐力：杭図面による
施工者：−
試験杭：着工後に、標準貫入試験および試験杭により支持層レベルの確認を行うものとする
試験用の杭は本設用を兼ねてよいものとし、その位置は杭伏図による
標準貫入試験の試験位置は監督員の承諾を得ること
標準貫入試験：■ 不要　□ 2ヶ所

■ C. 直接基礎
形式：□ 布基礎　■ べた基礎（一部 布基礎）
支持力：長期許容支持力　100.00 kN/m²
表面波探査試験：□ 不要　□ 必要（位置は伏図による）
標準貫入試験　：□ 不要　□ ヶ所
□ 着工後に基礎の敷砂利下端レベルにて平板載荷試験により確認すること
□ 平板載荷試験または標準貫入試験の試験位置は監督員の承諾を得ること
地盤改良：□ 図面による
■ 不要

□ D. その他（　　）

### 3.6 基礎・地盤説明書

調査位置 KBM−0.585m
設計GL=KBM−0.420m　基礎下端 GL−0.820m（KBM−1.240m）




## 4 準拠規準及び図書

OTA52808　BVJ審査済

構造図に記載のないものについては、下記の規準 及び 図書の最新版を参考とする

本工事特記仕様書
公共建築協会　公共建築工事標準仕様書
公共建築協会　建築工事施工監理指針上・下巻

A. 土工事 及び 山留め工事
日本建築学会　ＪＡＳＳ３ 土工事 及び 山留め工事
日本建築学会　山留め設計施工指針
日本建築学会　建築基礎構造設計基準 ・同解説

B. 地業工事
日本建築学会　ＪＡＳＳ４ 地業 及び 基礎スラブ工事
専門業者の評定資料 等

C. 鉄筋コンクリート工事
日本建築学会　ＪＡＳＳ５ 鉄筋コンクリート工事
日本建築学会　鉄筋コンクリート造配筋指針 ・同解説
日本建築学会　壁構造配筋指針（壁式鉄筋コンクリート造の場合）

D. 鉄骨工事
日本建築学会　ＪＡＳＳ６ 鉄骨工事
日本建築学会　鉄骨工事技術指針 ・工場製作編 及び 工事現場施工編
日本建築学会　溶接工作規準 ・同解説 I~VIII
日本建築学会　鉄骨精度測定指針
日本建築学会　鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準 等

E. プレキャストプレストレストコンクリート工事
日本建築学会　ＪＡＳＳ10 プレキャストコンクリート工事
日本建築学会　プレストレストコンクリート設計施工規準 ・同解説
日本建築センター　プレストレストコンクリート造設計施工指針
専門業者の評定資料 等

F. 検査等
東京都防災・建築まちづくりセンター
建築工事施工計画等の報告と建築材料試験の実務手引き

## 5 図面の整合

伏図と軸組図に食違いがあった場合は監督員と協議するものとする

## 6 提出書類と提出期日

| | 提出書類名 | 提出期日 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 全体工事 | ・全体工程表 | 決定後 10 日以内 | |
| | ・部分工程表 | 決定後 10 日以内 | |
| | ・協力業者リスト | 決定後 10 日以内 | 直営業者を含む<br>各業者の窓口の氏名を記入 |
| 土工事 | ◎掘削計画書 | 施工前 15 日以上 | |
| | ◎山留計画書 | 施工前 15 日以上 | 計算書も含む |
| コンクリート工事 | ◎調合計画書 | 施工前 20 日以上 | セメント、砂、砂利試験データを含む<br>生コンプラントからの所要時間<br>調合計画の計算書を含む<br>上記は打設期間の各区分毎 |
| | ◎打設計画書 | 施工前 20 日以上 | 打設位置<br>パイプレイター機種、台数 等 |
| | ・試験報告書 | 試験後 15 日以内 | |
| 型枠工事 | ◎躯体図 | 施工前 20 日以上 | |
| 鉄筋工事 | ☆材料試験報告書 | 施工前 10 日以上 | 規格品の場合は規格証明 |
| | ・ガス圧接試験要領書 | 施工前 10 日以上 | |
| | ☆ガス圧接強度試験報告書 | 試験後 10 日以内 | |
| | ◎加工図 | 施工前 20 日以上 | 標準部分（HOOP，STP，ｱﾝｶｰ 等）<br>特に複雑な部分 |
| 鉄骨工事 | ☆材料試験報告書 | 製作前 10 日以上 | 規格品の場合は規格証明<br>（確認されていれば後日でも可）<br>ハイテンションボルトを含む |
| | ◎工場製作要領書 | 製作前 30 日以上 | 特に溶接施工の要領を含む<br>溶接工リスト、資格リストを含む |
| | ◎現場施工要領書 | 建方前 30 日以上 | 同　上 |
| | ◎工作図 | 製作前 30 日以上 | 同　上 |
| | ☆超音波探傷試験報告書 | 検査後 10 日以内 | 検査資格者リストを含む |
| | ・製品検査報告書 | 検査後 10 日以内 | |

（注）1. ☆印を付したものは、不合格の場合は直ちに報告すること
2. 提出部数（構造監理者用として）
・印のあるもの（返却を要しないもの）　1部
◎印のあるもの（返却を要するもの）　2部
（但し、最終のものは1部でよい）
3. 提出期日については協議により変更可能
4. 東京都における工事の検査項目と提出書類は、
『建築工事施工計画等の報告と建築材料試験の実務手引き』に従うこと。

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project：萩村邸新築工事
The Seat：今帰仁村字兼次810-208，810-263

一級建築士：五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

Drawing Title：構造共通特記仕様書
Scale：
Drawing No.：S-01
Date：2026/01/06

0TA52808　BVJ審査済

# 鉄筋コンクリート工事特記仕様書

## 1 一般事項

### 1.1 適用範囲
この仕様書は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄筋工事に適用する

### 1.2 配筋検査
監督員の検査に先立ち、工事場鉄筋責任者は配筋状態が設計図通りであることを確認し、監督員に報告する

### 1.3 単位
本設計図中、特記のない寸法は mm とする

### 1.4 鉄筋記号
特記なき場合の鉄筋径別断面記号は下記による

● D10，9φ　● D19
× D13，13φ　⊖ D22
● D16　○ D25

注）Dは異形鉄筋を示す

### 1.5 材料試験
コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」に基づく第三者検査とする

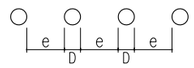
## 2 特記なき場合の鉄筋に対するコンクリートの被り及び開き間隔

### 2.1 被り厚（最小寸法）

| | | 上端 | 下端 | 側面 |
|---|---|---|---|---|
| 柱 | | | | 40 |
| 梁 | X方向 | 40 + D | 40 | 40 |
| | Y方向 | 40 | 40 + D | 40 |
| 地中梁 | X方向 | 40 | 70 + D | 50 |
| | Y方向 | 40 + D | 70 | 50 |
| 床版 | | 30 | 30 | |
| 壁版 | | 30 | 60 | |
| 耐力壁 | | | | 40 |
| 地下壁 | 内側 | | | 40 |
| | 外側 | | | 50 |
| 帳壁 | | | | 30 |
| 基礎 | | 40 | 70 | 70 |
| 擁壁 | | | | 外 70，内 40 |

注：1. 上記の被り厚さは最も外側の鉄筋に対する値を示す
2. 打放し仕上の場合は上記の値 +10 とする
3. 軽量コンクリートの場合、土に接する部分は上記の値 +10 とする
4. Dは鉄筋の最外径

### 2.2 鉄筋の開き間隔




e ≧ 粗骨材の最大寸法の 1.25倍
かつ 25mm
かつ 1.5d

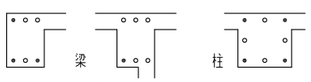
注）d は鉄筋の呼び名の数値
D は鉄筋の最外径

## 3 鉄筋のフック及び曲げ

### 3.1 加工寸法の許容差

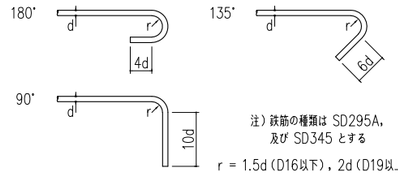
| 項目 | 許容差 |
|---|---|
| 帯筋、スパイラル筋、肋筋 | ± 5 |
| 上記以外の鉄筋 | ± 15 |
| 加工後の全長 | ± 20 |

### 3.2 鉄筋末端部のフックは下記の標準による
A. 下記に示す鉄筋の末端部にはフックをつける
（1）丸鋼　（2）帯筋、肋筋、巾止め筋　（3）煙突の鉄筋
（4）片持ち梁・片持ちスラブの上端筋の先端
（5）柱の出隅部分の主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
梁主筋の重ね継手が、出隅及び下端両端にある場合（下図の・印の鉄筋）




注：特記なき場合、上記以外の異形鉄筋はフックなし

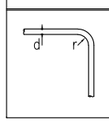
B. フックの寸法は下図による




注）鉄筋の種類は SD295A，及び SD345 とする

r = 1.5d（D16以下），2d（D19以上）

### 3.3 特記なき場合の鉄筋の曲げは下記の標準による、但し 90°以下とする



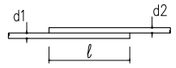
| 使用箇所 | 鉄筋の径 | r |
|---|---|---|
| 帯筋、肋筋、スパイラル筋 | D16 以下 | ≧ 1.5d |
| | D19 以上 | ≧ 2d |
| 上記以外 | D16 以下 | ≧ 2d |
| | D25 以下 | ≧ 3d |
| | D29 以上 | ≧ 4d |

注）鉄筋の種類は SD295A 及び SD345 とする

## 4 鉄筋の継手

### 4.1 特記なき場合のD19以上の鉄筋継手はガス圧接継手とし、D16以下の鉄筋継手は重ね継手とする
但し、床，壁に用いる場合のD32以下の鉄筋継手は、監督員との協議により重ね継手にできる場合がある

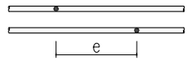
### 4.2 特記なき場合の重ね継手長さは下記の標準による




| ℓ | |
|---|---|
| フックなし | フックあり |
| 40d | 30d |

注）d1≠d2 の時、d は小さいほうをとる

### 4.3 特記なき場合の隣り合う鉄筋の継手は下記の標準による
A. ガス圧接継手の場合

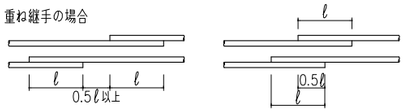



e ≧ 400mm

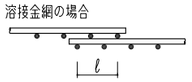
注）● 印は圧接箇所を示す

圧接部の検査は、外観検査（全数検査）と引張試験（抜取検査）とする
引張試験の抜取方法は、「公共建築工事標準仕様書」による

B. 重ね継手の場合

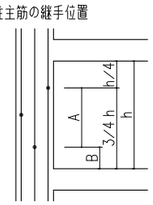



C. 溶接金網の場合




ℓ ≧ 鋼線間隔+50mmかつ150mm

### 4.4 特記なき場合の継手位置及び曲げ位置は下記の標準による
A. 柱主筋の継手位置

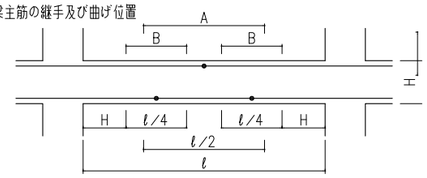



注）・印は継手中心位置を示す

継手は左図のA部内に設ける

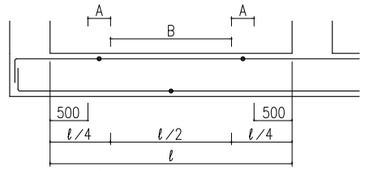
Bは圧接継手の場合500以上、
重ね継手のときh/4とする

B. 梁主筋の継手及び曲げ位置



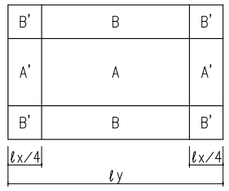

・上端主筋の継手位置はA部内（直接基礎の基礎梁の場合はB部内）に設ける
・下端主筋の継手位置はB部内（直接基礎の基礎梁の場合はA部内）に設ける

C. 基礎梁主筋の継手及び曲げ位置




・上端主筋の継手位置はA部内に設ける
・下端主筋の継手位置はB部内に設ける

D. 床版鉄筋の継手及び曲げ位置




・鉄筋の折り曲げ位置は周辺より ℓx/4 の位置（左図の点線位置）とし、その位置に1−D13を配筋する

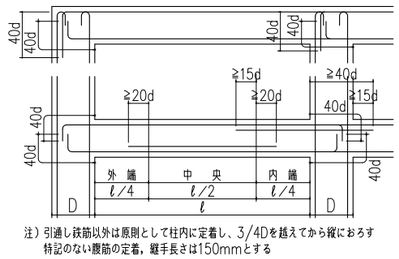
・鉄筋の継手位置は下表による

| | | |
|---|---|---|
| 上端筋 | 短辺方向 | A，A'内 |
| | 長辺方向 | A，B内 |
| 下端筋 | 両方向 | A'，B，B'内 |

耐圧スラブの場合は上表で、
上端筋→下端筋，下端筋→上端筋と読みかえる

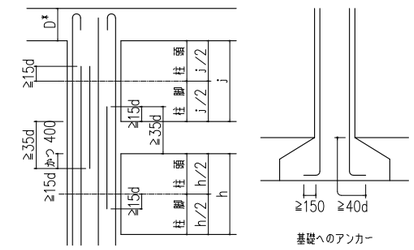
## 5 特記なき場合の鉄筋の定着

### 5.1 大梁（基礎梁）主筋の柱への定着




注）引通し鉄筋以外は原則として柱内に定着し、3/4Dを越えてから縦におろす
特記のない腹筋の定着，継手長さは150mmとする
注）基礎梁主筋の定着長も40dとする

### 5.2 柱主筋の定着



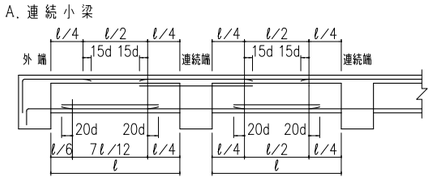

＊ D＜750 の場合は監督員の指示による

基礎へのアンカー

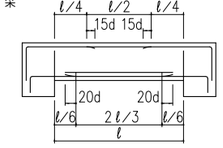
### 5.3 小梁の大梁への定着及び片持ち梁の先端の小梁への定着



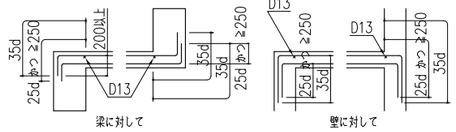

A. 連続小梁



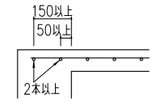

B. 単独小梁



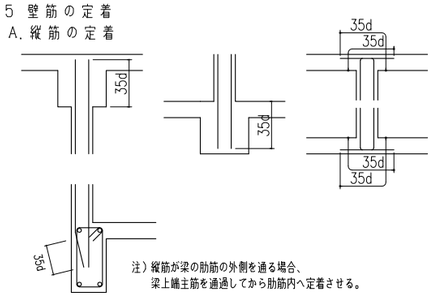

### 5.4 床版及び階段鉄筋の定着




溶接金網の場合



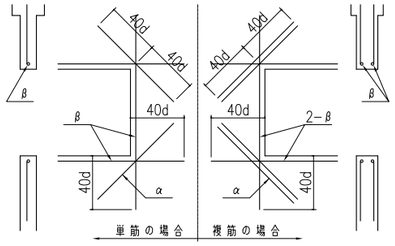

### 5.5 壁筋の定着
A. 縦筋の定着


35d
35d
35d

## 7　特記なき場合の開口部の補強は下記による

### 7．1　壁の開口部補強

A．補　強　法



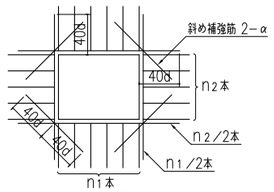

（α：斜め筋，β：縦筋・横筋）
α：当該壁に使用されている最大径の鉄筋
β：αよりひと回り太い鉄筋

B．開口部が柱、梁に接する部分、及び最大径が300以下で、鉄筋をゆるやかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる
ただし、これに該当する開口部が2つ以上近接している場合はこの限りではない

C．配電盤，コンセントボックスなども開口補強を行うこと

### 7．2　床版の開口部補強

A．補　強　法




α：当該床に使用されている最大径の鉄筋

B．床版開口の最大径が両方向配筋間隔以下で、鉄筋をゆるやかに湾曲させて、開口を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる

C．開口径が600以上の場合は、監督員の指示による

D．配電盤などの埋め込み，埋設管の密集部も開口と考えること。

## 8　貫通孔，埋設管の補強は下記による

### 8．1　原　　則

A．梁のスパン中央部で、かつ梁丈中央部を貫通する

B．片持ち梁は先端近くで、かつ梁丈中央部を貫通する

C．梁丈中央部とは、梁の上下端より各々200避けた部分を指し、スパン中央部とは、内のりスパンの1／2の中央範囲を指す

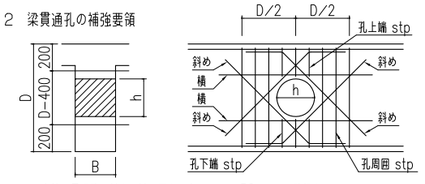
D．同一の梁を2箇所以上貫通する場合の間隔は、その中心距離を孔の径の平均値の3倍以上離す

E．柱には原則として貫通孔および埋設管を設けないこと

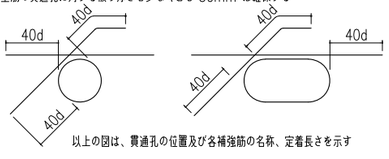
F．梁，壁，床への貫通孔および埋設管は躯体図に記入し、監督員の承認を得ること

G．コンセントボックスなどの柱梁への埋め込みは原則として増し打ち部に納めるものとし、構造断面に欠損の生じる場合は監督員の承認を得ること

### 8．2　梁貫通孔の補強要領




＊ 主筋の貫通孔に対する被り厚さを少なくとも 50mm は確保する




以上の図は、貫通孔の位置及び各補強筋の名称、定着長さを示す

A．h ≦ D/10 の場合は、補強なしでよい

B．下記に該当しない場合は監督員の指示による

C．D/10 ＜ h ≦ D/3 ないし D−400 の場合については下記の標準補強による

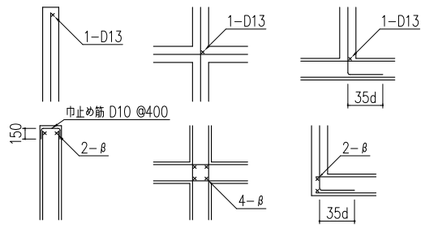
a．孔周囲のstpは孔の中心から両側 D／2 の範囲で当該梁のstpを1／2間隔にする
b．孔上端，孔下端のstpは当該梁のstpを1／2間隔にしたものとする
c．横，斜めの補強筋は下表による

| 適　用　範　囲 | | 鉄　筋　補　強 | |
|---|---|---|---|
| 孔径 | 梁幅 B | 横 | 斜め |
| h ≦ 100 | B ≦ 300 | 1−D13 x 2ヶ所 | 1−D13 x 4ヶ所 |
| | B ≦ 400 | 1−D13 x 2ヶ所 | 2−D13 x 4ヶ所 |
| | B ≦ 500 | 1−D13 x 2ヶ所 | 2−D13 x 4ヶ所 |
| h ≦ 300 | B ≦ 300 | 1−D13 x 2ヶ所 | 2−D13 x 4ヶ所 |
| | B ≦ 400 | 2−D13 x 2ヶ所 | 3−D16 x 4ヶ所 |
| | B ≦ 500 | 2−D16 x 2ヶ所 | 3−D16 x 4ヶ所 |
| h ≦ 600 | B ≦ 300 | 1−D13 x 2ヶ所 | 2−D13 x 4ヶ所 |
| | B ≦ 400 | 2−D16 x 2ヶ所 | 3−D16 x 4ヶ所 |
| | B ≦ 500 | 3−D16 x 2ヶ所 | 4−D16 x 4ヶ所 |

上記標準仕様によらず、既製の認定品を使用する場合は使用する仕様書と計算書を監督員に提出し承諾を得ること

## 9　特記なき場合の各部の補強は下記による

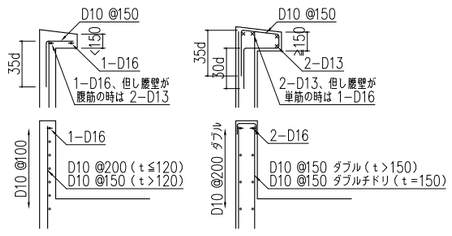
### 9．1　壁交差部及び端部の標準配筋（一部 5.5.B 参照）




β：当該壁に使用されている最大径の鉄筋よりひと回り太い鉄筋

### 9．2　パラペット及び腰壁、下り壁の先端の補強

注）下り壁は腰壁に準ずる




### 9．3　片持ち床版の先端部の補強

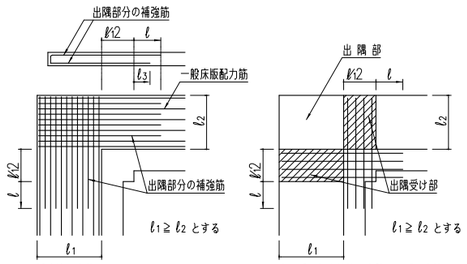
| ℓ≦600 で長さ 10m以下 | 600＜ℓ≦1000 で長さ 10m以下 |
|---|---|
| 1−D13<br>2−D13　ℓ | 1−D13<br>2−D13　ℓ |
| ℓ≦1000 で長さ 10m以上<br>又は ℓ＞1000 で長さ 10m以下 | ℓ＞1000 で長さ 10m以上 |
| 1−D13<br>3−D13<br>1−D13<br>ℓ | 1−D13<br>4−D13<br>1−D13<br>ℓ |

注1）三辺固定床版の自由端も上図に準ずる

### 9．4　片持ち床版の出隅の補強

出隅部の配筋は当該スラブと同密度の配筋となる様に下図の補強を行う

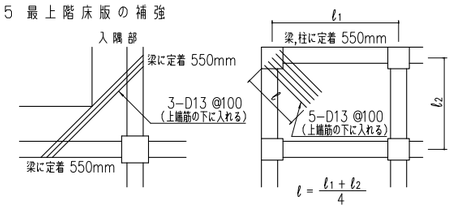
出隅部分補強配筋　　出隅受け部配筋




補強筋の定着長さ
上端筋　ℓ ≧ ℓ1 かつ 40d
下端筋　ℓ ≧ ℓ1 かつ 25d

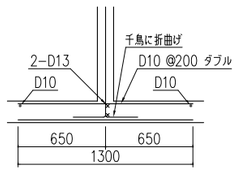
ℓ3 ≧ 150 かつ 10d

### 9．5　最上階床版の補強

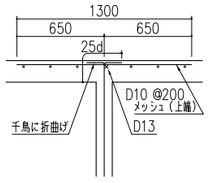



### 9．6　壁つき床版の補強

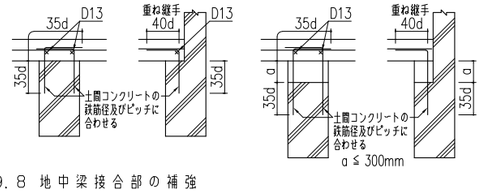
・間仕切壁がスラブから立ち上がる場合




・スラブに間仕切壁が取り付く場合（但しスラブ上端筋がない場合）

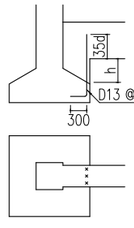



### 9．7　土間コンクリート（地中梁にのせる場合）の補強

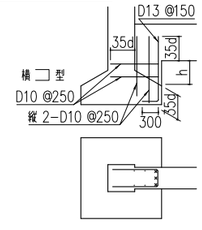



### 9．8　地中梁接合部の補強

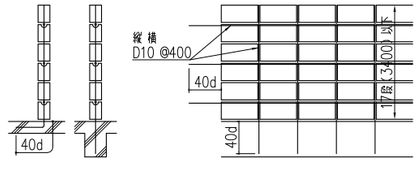
h≦300 の場合



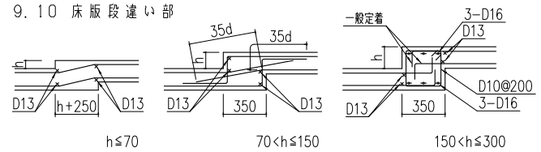

300＜h≦1000 の場合




### 9．9　間仕切用ブロックの補強




### 9．10　床版段違い部

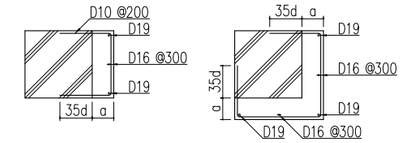



### 9．11　増し打ち部分の補強

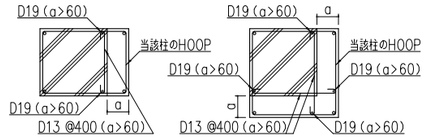
A．柱

（1）増し打ち厚さ a が a＜60 の場合は補強不要

（2）60＜a≦200 の場合は下図による




（3）以上（1）（2）の場合でも柱頭から柱脚にわたって連続して増し打ちとなる場合は、柱サイズが増し打ち部を含めた寸法になったものとして、下図のような配筋を行う



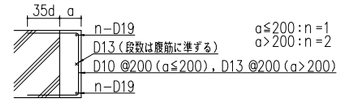

B．大梁・小梁・地中梁

（1）増し打ち厚さ a が a＜60 の場合は補強不要

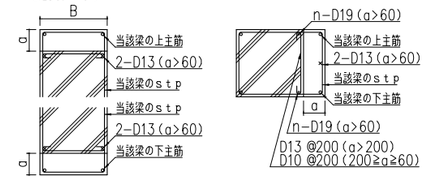
（2）上下の増し打ち厚さ a が 60＜a≦200 の場合は下図による




（3）側面の増し打ち厚さ a が 60＜a≦400 の場合

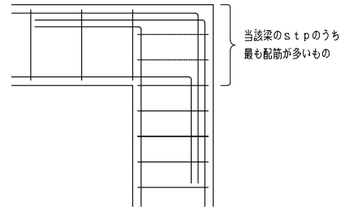



（4）以上（1）～（3）の場合でも梁の全長にわたって増し打ちとなる場合は、梁のサイズが増し打ち部を含めた寸法になったものとして下図の様な配筋を行う




### 9．12　基礎梁交差部

基礎梁交差部は少なくとも1方向にはSTPを配筋すること




## 10　耐震スリット

耐震壁のスリットは完全スリットとし、詳細は下記の図書の最新版による
日本建築センター　建築物の構造関係技術基準解説書

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project:　萩村邸新築工事

The Seat:　今帰仁村字兼次810−208，810−263

一級建築士：　五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161−3645号

〒901−0611
沖縄県南城市玉城字富里573−1
TEL/FAX：098−917−6390
E−mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title:　鉄筋コンクリート工事特記仕様書２

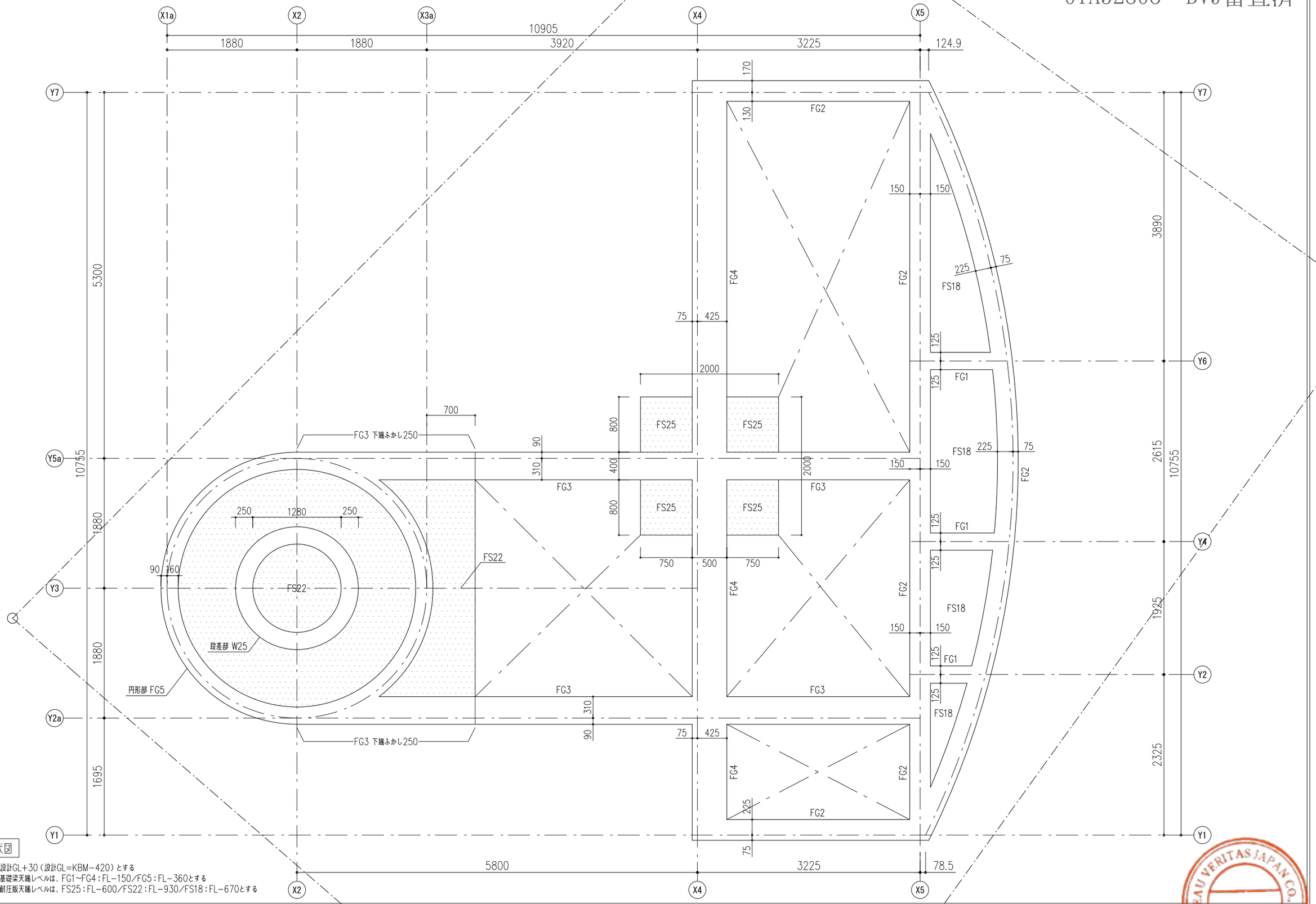
Scale:

Drawing No.：　S−03

Date:　2026/01/06

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

0TA52808　BVJ審査済




基礎伏図

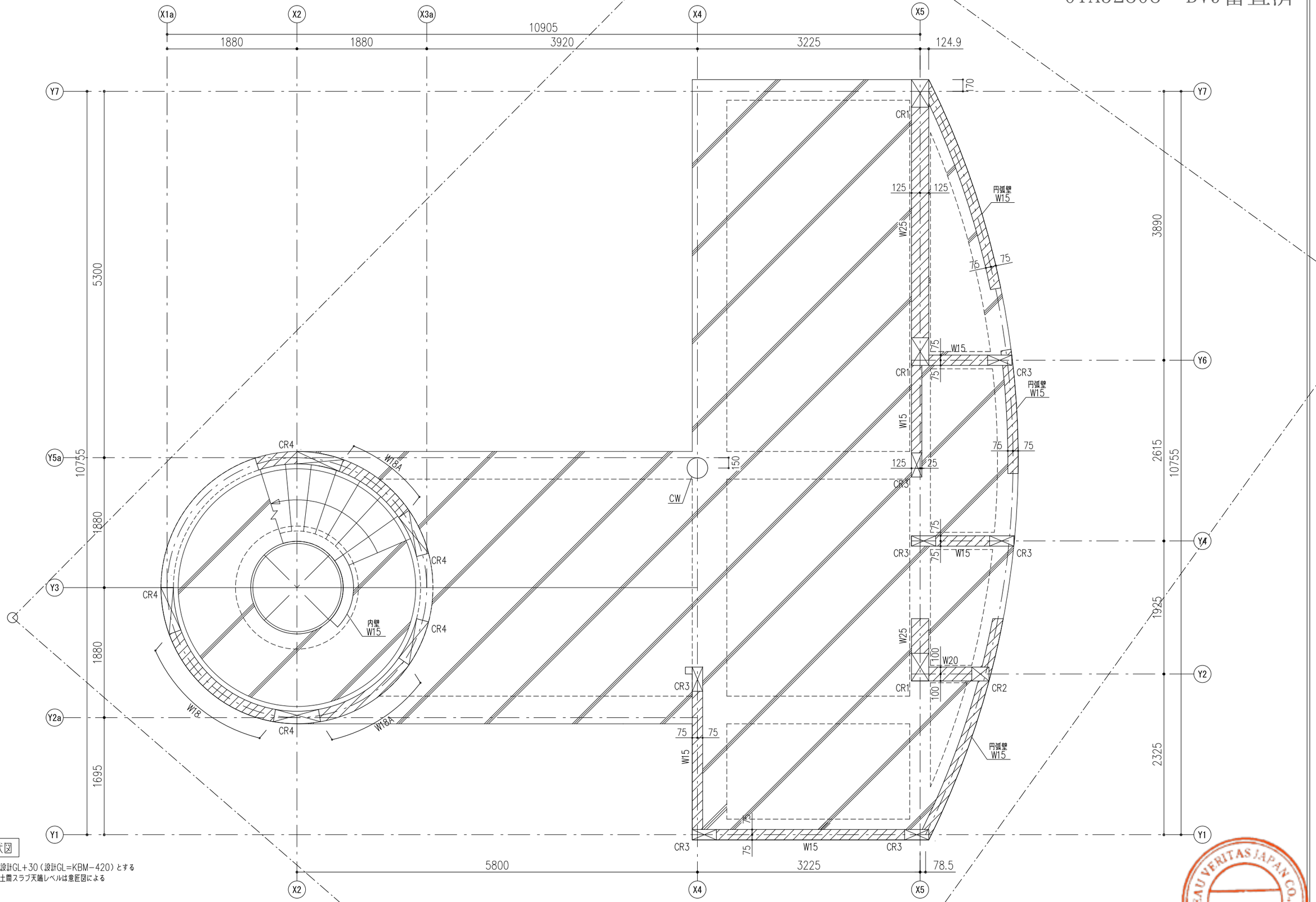
1FL=設計GL+30（設計GL=KBM−420）とする
特記外基礎梁天端レベルは、FG1~FG4：FL−150/FG5：FL−360とする
特記外耐圧版天端レベルは、FS25：FL−600/FS22：FL−930/FS18：FL−670とする

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| STUDIO COCHI ARCHITECTS | Project: 萩村邸新築工事<br>The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263 | 一級建築士: 五十嵐 敏恭<br>一級建築士登録 第357184号<br>一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号 | 〒901-0611<br>沖縄県南城市玉城字富里573-1<br>TEL/FAX：098-917-6390<br>E-mail：info@studiocochiarchitects.jp | Drawing Title:<br>基礎伏図 | Scale:<br>1:50 @ A3 | Drawing No.: S-04<br>Date: 2026/01/05 |

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

0TA52808　BVJ審査済

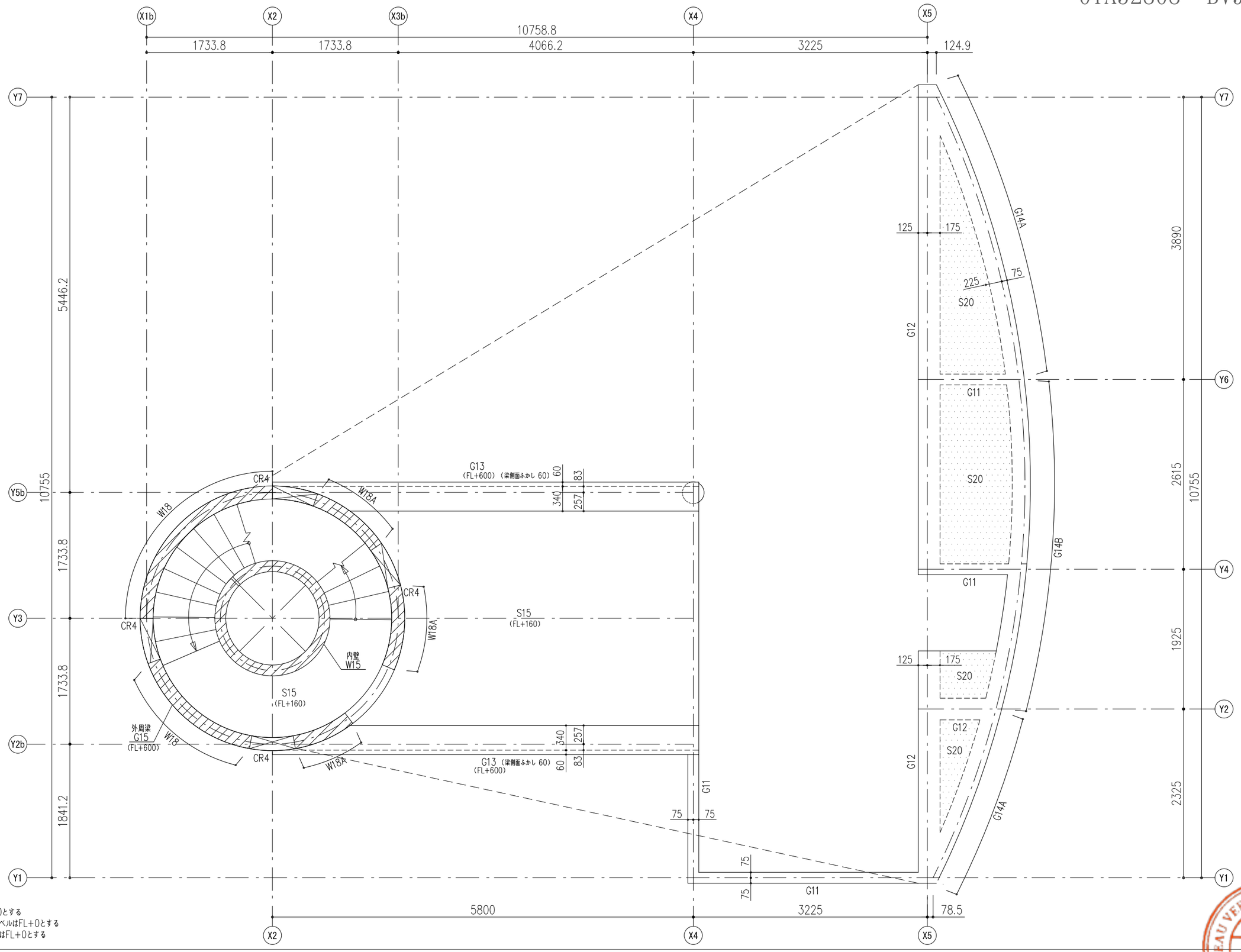



1階伏図

1FL＝設計GL＋30（設計GL＝KBM－420）とする
特記外土間スラブ天端レベルは意匠図による

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| STUDIO COCHI ARCHITECTS | Project: 萩村邸新築工事<br>The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263 | 一級建築士: 五十嵐 敏恭<br>一級建築士登録 第357184号<br>一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号 | 〒901-0611<br>沖縄県南城市玉城字富里573-1<br>TEL/FAX：098-917-6390<br>E-mail：info@studiocochiarchitects.jp | Drawing Title:<br>1階伏図 | Scale:<br>1:50 @ A3 | Drawing No.: S-05<br>Date: 2026/01/06 |

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号




2階伏図

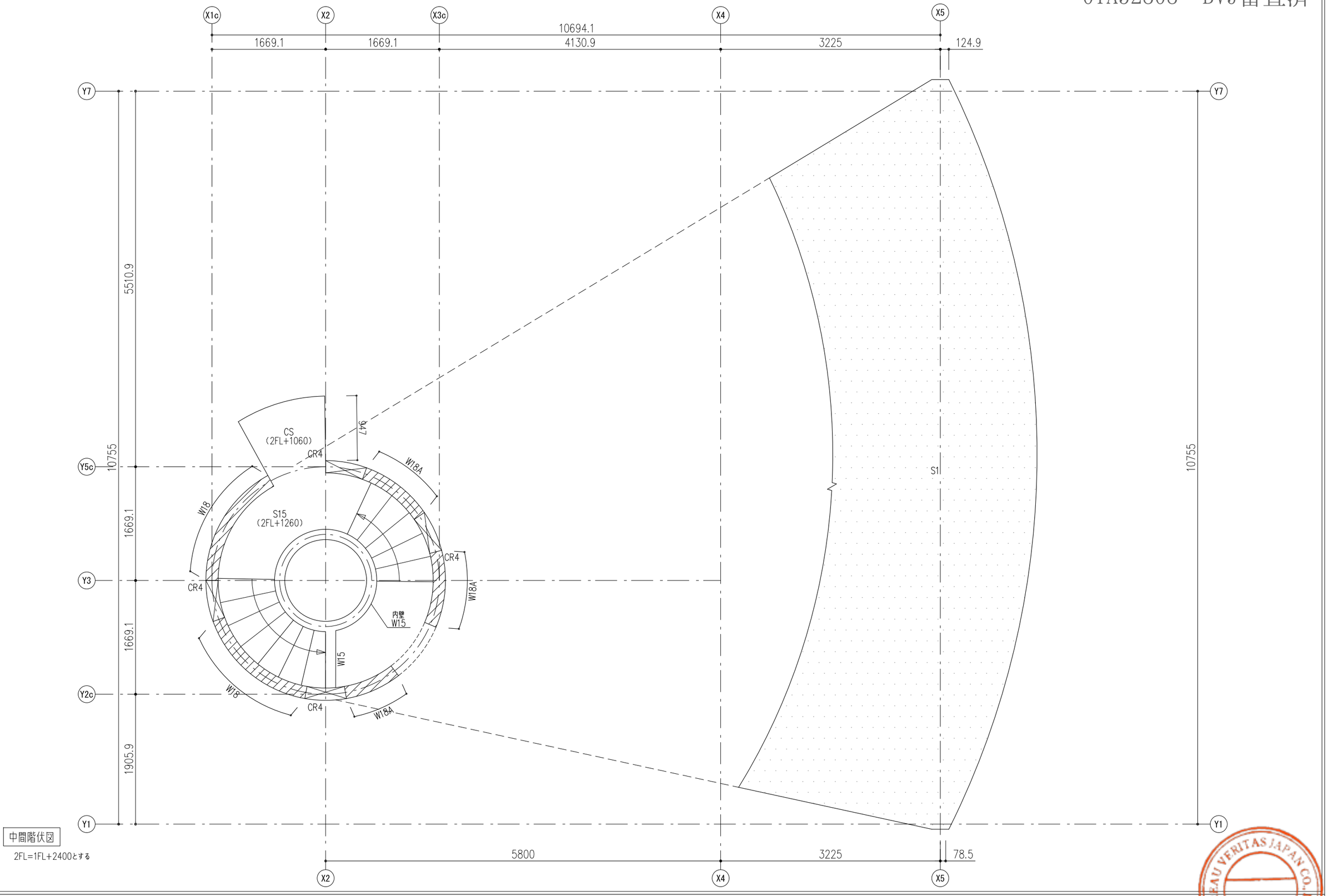
2FL=1FL+2400とする
特記外スラブ天端レベルはFL+0とする
特記外梁天端レベルはFL+0とする

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| STUDIO COCHI ARCHITECTS | Project: 萩村邸新築工事<br>The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263 | 一級建築士: 五十嵐 敏恭<br>一級建築士登録 第357184号<br>一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号 | 〒901-0611<br>沖縄県南城市玉城字富里573-1<br>TEL/FAX：098-917-6390<br>E-mail：info@studiocochiarchitects.jp | Drawing Title:<br>２階伏図 | Scale:<br>1:50 @ A3 | Drawing No.: S-06<br>Date:<br>2026/01/05 |

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

0TA52808　BVJ審査済



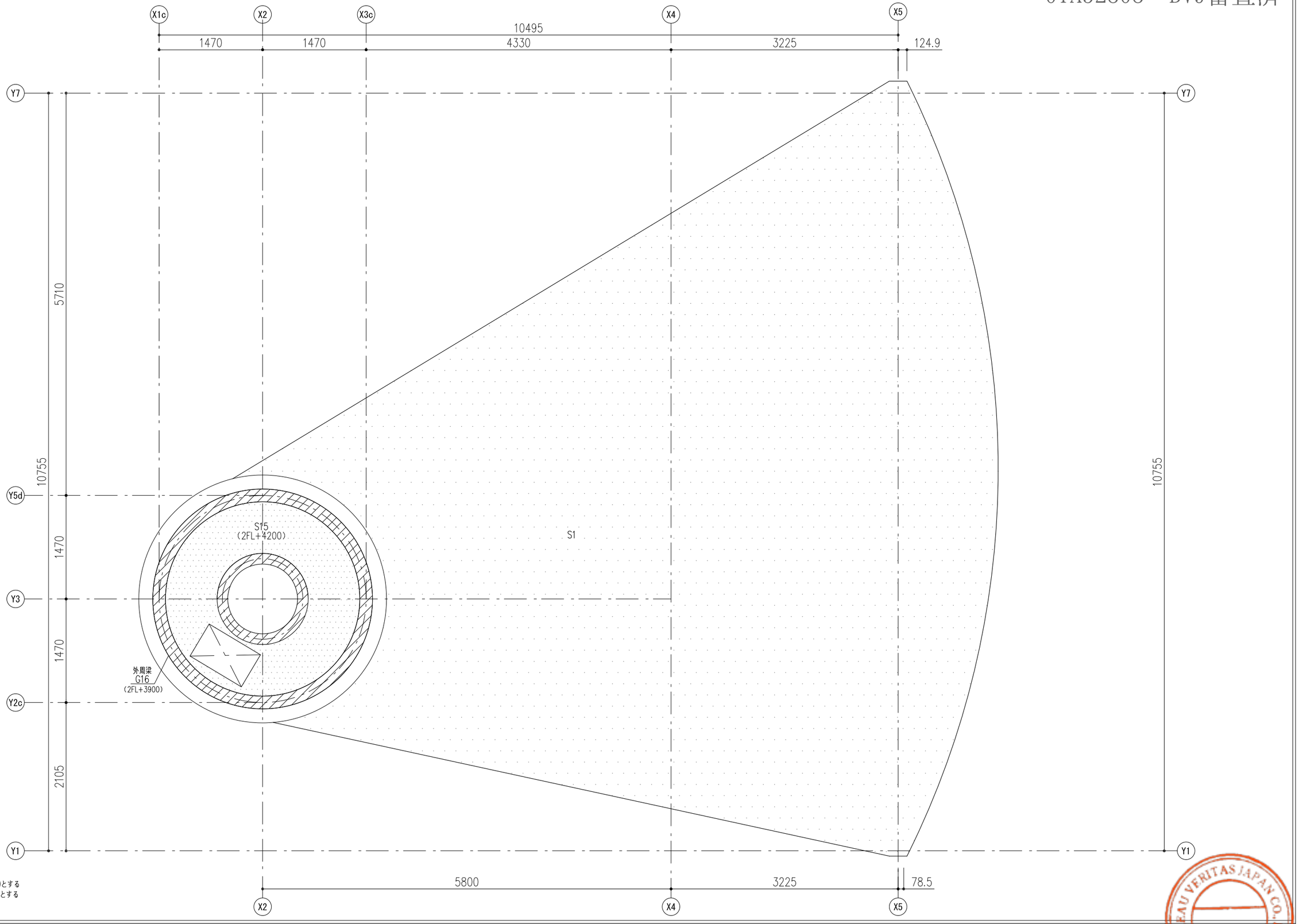

中間階伏図

2FL=1FL+2400とする

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| STUDIO COCHI ARCHITECTS | Project: 萩村邸新築工事<br>The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263 | 一級建築士: 五十嵐 敏恭<br>一級建築士登録 第357184号<br>一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号 | 〒901-0611<br>沖縄県南城市玉城字富里573-1<br>TEL/FAX：098-917-6390<br>E-mail：info@studiocochiarchitects.jp | Drawing Title:<br>屋根伏図 1 | Scale:<br>1:50 @ A3 | Drawing No.: S-07<br>Date:<br>2026/01/05 |

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

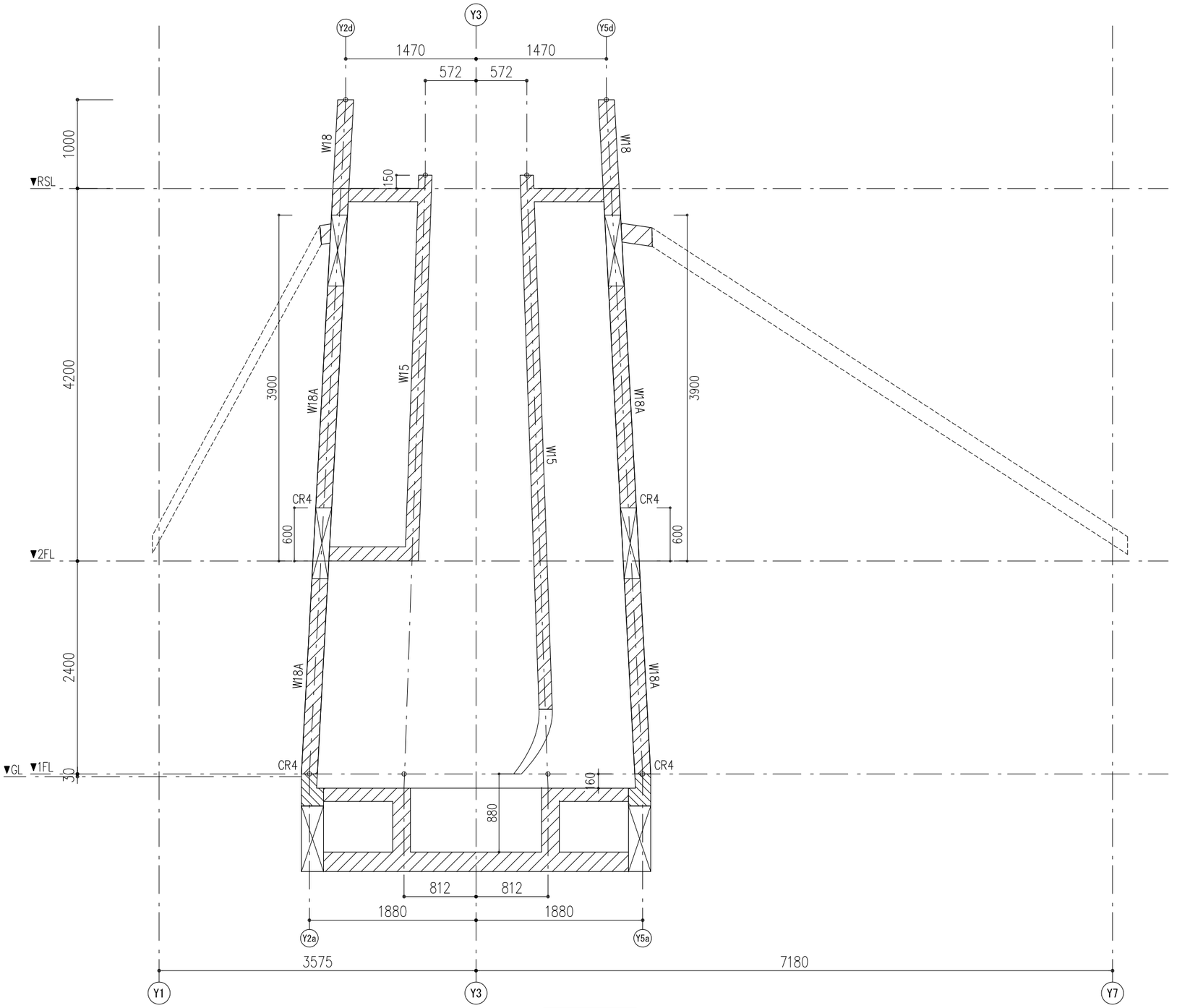



屋根伏図

RSL=1FL+6000とする
パラペット壁はW18とする

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| STUDIO COCHI ARCHITECTS | Project: 萩村邸新築工事<br>The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263 | 一級建築士: 五十嵐 敏恭<br>一級建築士登録 第357184号<br>一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号 | 〒901-0611<br>沖縄県南城市玉城字富里573-1<br>TEL/FAX：098-917-6390<br>E-mail：info@studiocochiarchitects.jp | Drawing Title:<br>屋根伏図２ | Scale:<br>1:50 @ A3 | Drawing No.: S-08<br>Date:<br>2026/01/05 |

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.




X2通り軸組図

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project: 萩村邸新築工事

The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263

一級建築士: 五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title: 軸組図 1

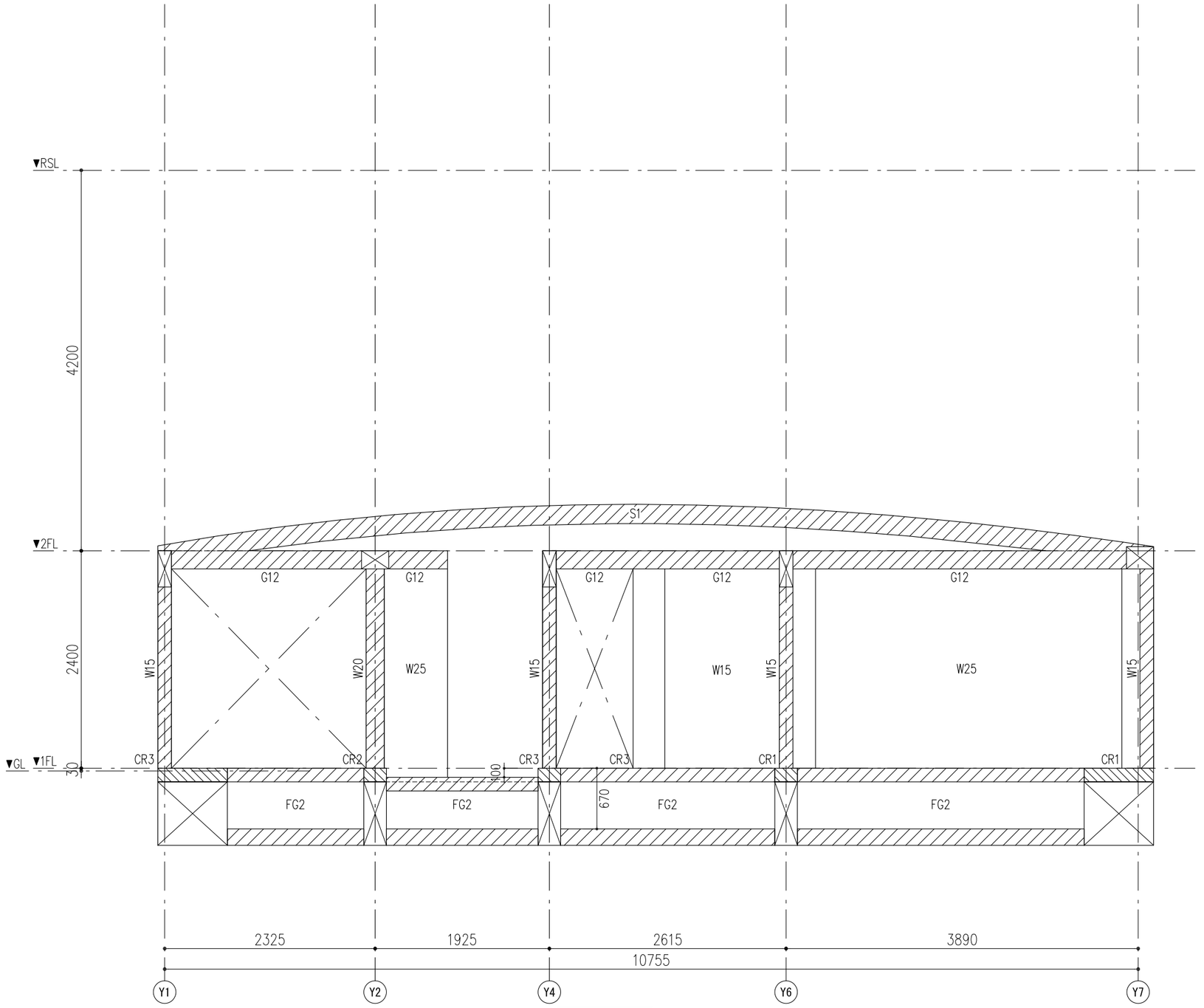
Scale: 1:50 @ A3

Drawing No.: S-09

Date: 2026/01/06

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号




X5通り軸組図

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project: 萩村邸新築工事

The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263

一級建築士: 五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title: 軸組図 1

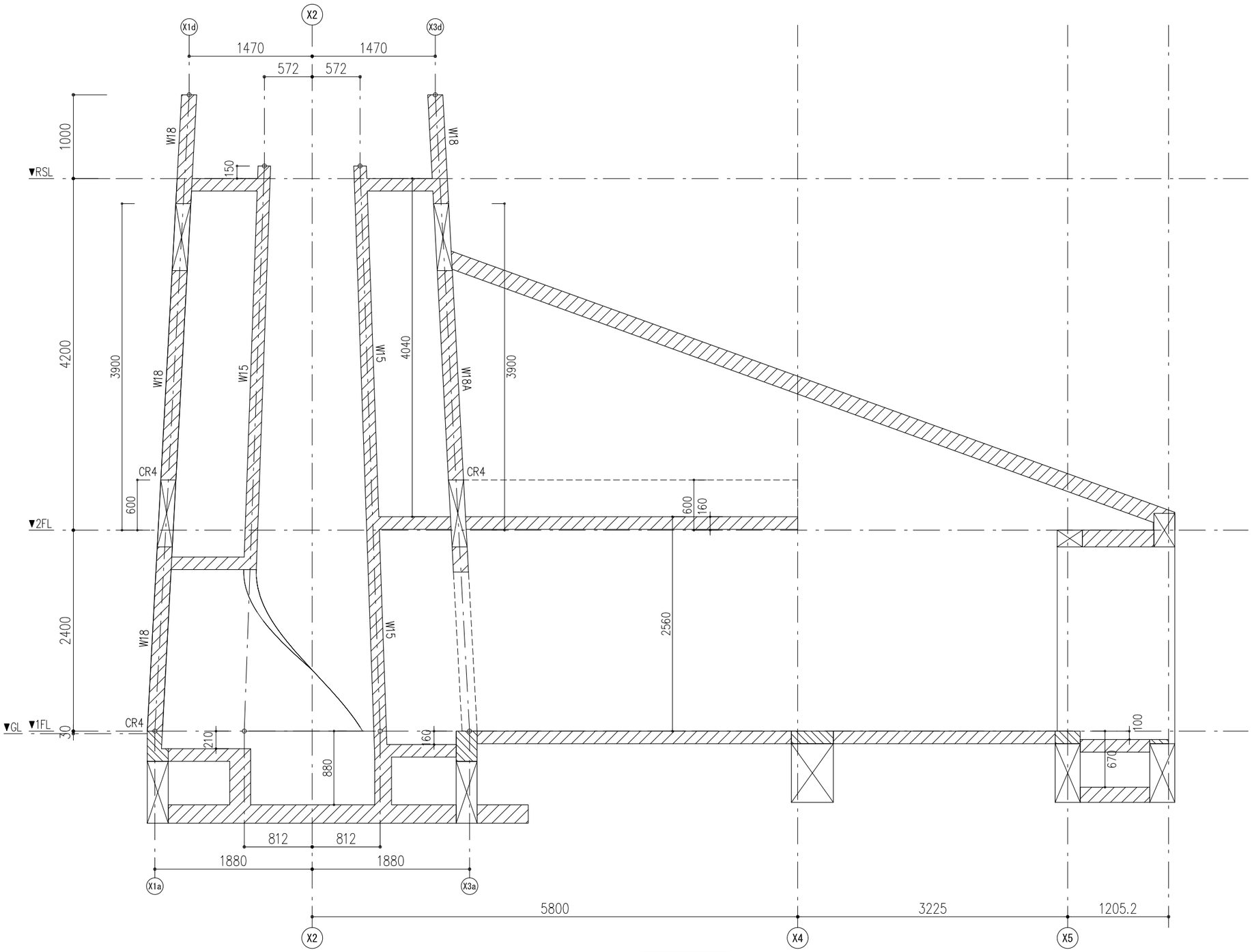
Scale: 1:50 @ A3

Drawing No.: S-10

Date: 2026/01/06

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号




Y3通り軸組図

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project: 萩村邸新築工事

The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263

一級建築士: 五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title: 軸組図３

Scale: 1:50 @ A3

Drawing No.: S-11

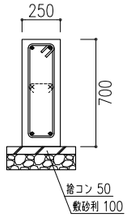
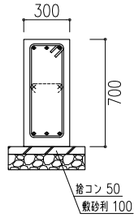
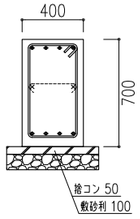
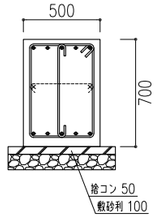
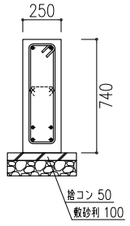
Date: 2026/01/06

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

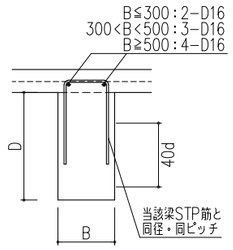
構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

0TA52808　BVJ審査済

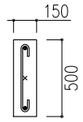
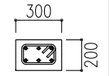
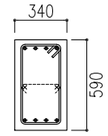
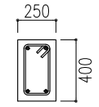
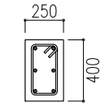
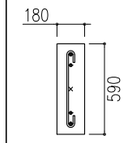
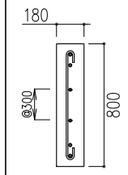
## RC基礎梁断面リスト

| 記号 | FG1 | FG2 | FG3 | FG4 | FG5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 断面形状 |  |  |  |  |  |
| 上端主筋 | 2−D16 | 3−D16 | 4−D16 | 5−D16 | 2−D16 |
| 下端主筋 | 2−D16 | 3−D16 | 4−D16 | 5−D16 | 4−D16 |
| STP筋 | ロ−D10@200 | ロ−D13@200 | ロ−D13@200 | Ⅲ−D13@200 | ロ−D10@200 |
| 腹筋 | 2−D13 | 2−D13 | 2−D13 | 2−D13 | 2−D13 |
| 巾止筋 | 1−D10@800 | 1−D10@800 | 1−D10@800 | 1−D10@800 | 1−D10@800 |

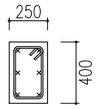
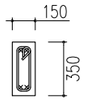
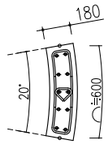
梁天端増し打ち部配筋要領




## RC梁断面リスト

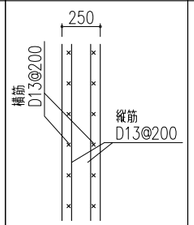
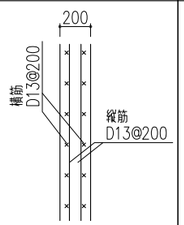
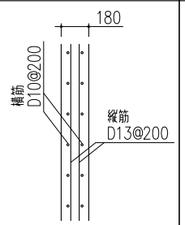
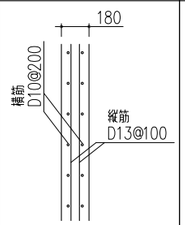
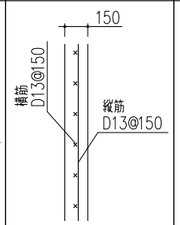
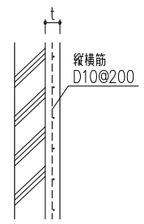
| 記号 | G11 | G12 | G13 | G14A | G14B | G15 | G16 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 断面形状 |  |  |  |  |  |  |  |
| 上下主筋 | 1−D16 | 3−D16 | 4−D16 | 2−D16 | 2−D19 | 2−D16 | 2−D19 |
| STP筋 | ロ−D10@200 | ロ−D10@150 | ロ−D13@200 | ロ−D10@200 | ロ−D10@200 | 1−D13@100 | 1−D13@100 |
| 腹筋 | 1−D13 | − | 2−D13 | − | 2−D19 主筋扱い | 1−D13 主筋扱い | 2−D16 主筋扱い |
| 巾止筋 | − | − | 1−D10@800 | − | − | − | − |

## 柱断面リスト

| 記号 | CR1 | CR2 | CR3 | CR4 |
|---|---|---|---|---|
| 断面形状 |  |  |  |  |
| | 主筋 6−D13<br>帯筋 ロ−D10@100 | 主筋 4−D13<br>帯筋 ロ−D10@100<br>かぶり 30とする | 主筋 4−D13<br>帯筋 ロ−D10@100<br>かぶり 30とする | 主筋 10−D16<br>帯筋 日−D10@100<br>かぶり 30とする |

帯筋の製作・加工が困難な場合や、フック部が主筋と干渉する場合の帯筋はフレア溶接とすること
CR4の帯筋は2つのU字形を組み合わせ、フレア溶接（片側10d以上）により製作すること

## 壁断面リスト

| 記号 | W25 | W20 | W18 | W18A | W15 | 壁増打ち部配筋要領 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 断面形状 |  |  |  |  |  |  |
| 縦筋 | D13@200ダブル | D13@200ダブル | D13@200ダブル（千鳥） | D16@100ダブル（千鳥） | D13@150シングル | 当該構造壁が<br>複配筋の場合　t>60の場合<br>単配筋の場合　t>40の場合<br>増し打ち部にD10@200を配すこと |
| 横筋 | D13@200ダブル | D13@200ダブル | D10@200ダブル | D10@200ダブル | D13@150シングル | |

- 巾止筋をD10@800x800で配筋すること。打込み管は捨筋を別途設け主筋には結束しない。
- CD管などの打込み配管の位置やルート、本数・径は、事前に（壁差筋部の打設前）施工図に明記し、監理者に確認をとること。
  密集程度により配筋を増す場合がある。尚、報告なき場合は、打込み不可とする

## 床断面リスト

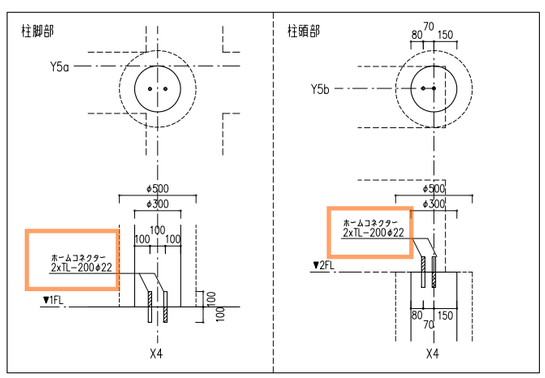
FSスラブ下端は、捨コン50mm、敷砂利100mmとする

| 記号 | 版厚 | 位置 | CSの場合 短辺方向　跳ね出し方向 | 長辺方向 |
|---|---|---|---|---|
| 土間スラブ | 150 | 中央 | D13@200 | D13@200 |
| FS18 | 180 | 中央 | D13@200 | D13@200 |
| FS22 | 220 | 上端 | D10・D13交互@200 | D10・D13交互@200 |
| | | 下端 | D13@100 | D13@100 |
| FS25 | 250 | 上端 | D10・D13交互@200 | D10・D13交互@200 |
| | | 下端 | D16@100 | D16@100 |
| S15 | 150 | 上端 | D10・D13交互@200 | D10・D13交互@200 |
| | | 下端 | D10・D13交互@200 | D10・D13交互@200 |
| S20 | 200 | 上端 | D10・D13交互@200 | D10・D13交互@200 |
| | | 下端 | D10・D13交互@200 | D10・D13交互@200 |
| CS | 100 | 中央 | D13@150 上端かぶり30とする | D10@200 |

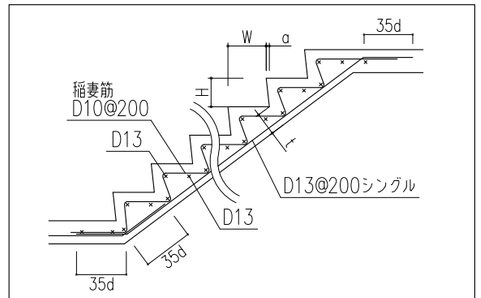
## 木部材リスト

| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 柱 | CW | φ500 （構造材の有効φ300とする） | E70 | すぎ　含水比20%以下 |

## 木柱接合部詳細




## RC階段断面リスト




| | 踏面　W | 蹴上　H | 蹴込 a | ささら厚 t |
|---|---|---|---|---|
| 各階 | 意匠図による | 意匠図による | 意匠図による | 150 |

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project:　萩村邸新築工事

The Seat:　今帰仁村字兼次810-208, 810-263

一級建築士:　五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title:　断面リスト1

Scale:　1:40 @ A3

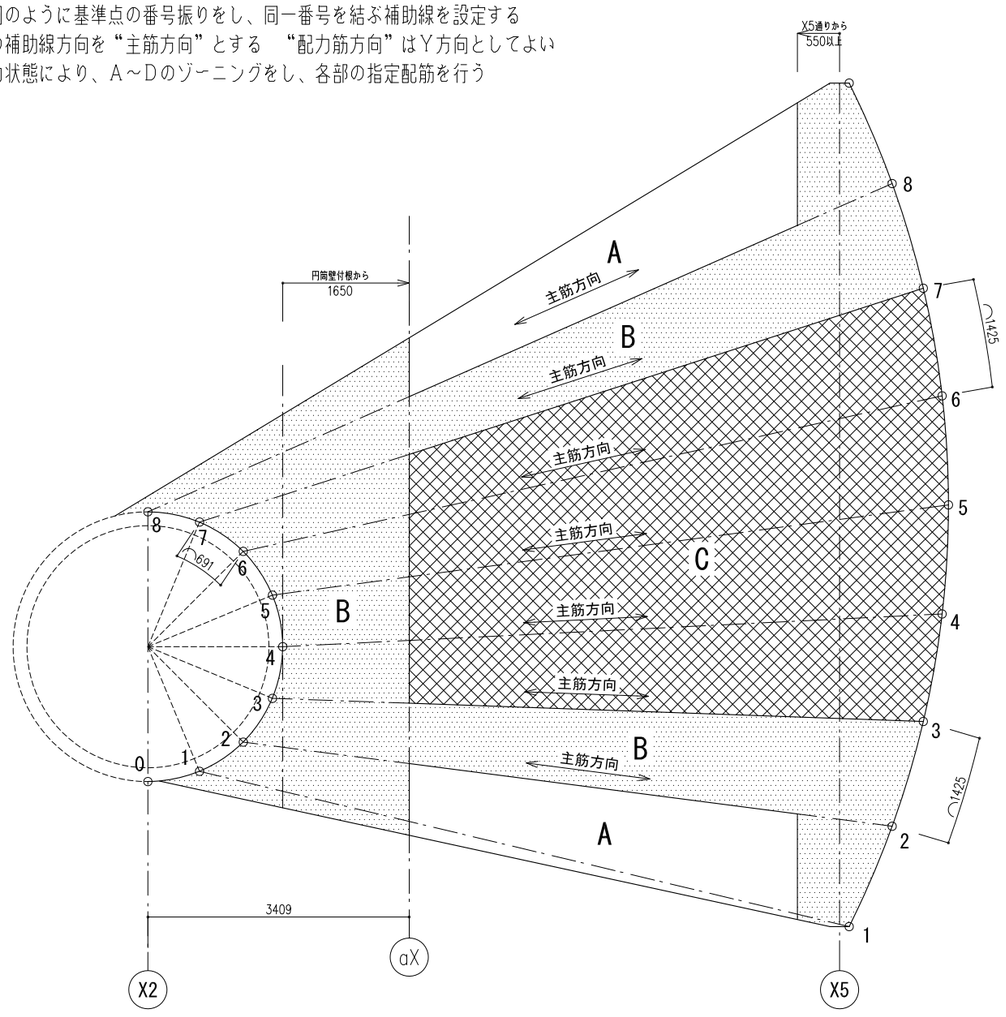
Drawing No.:　S-12

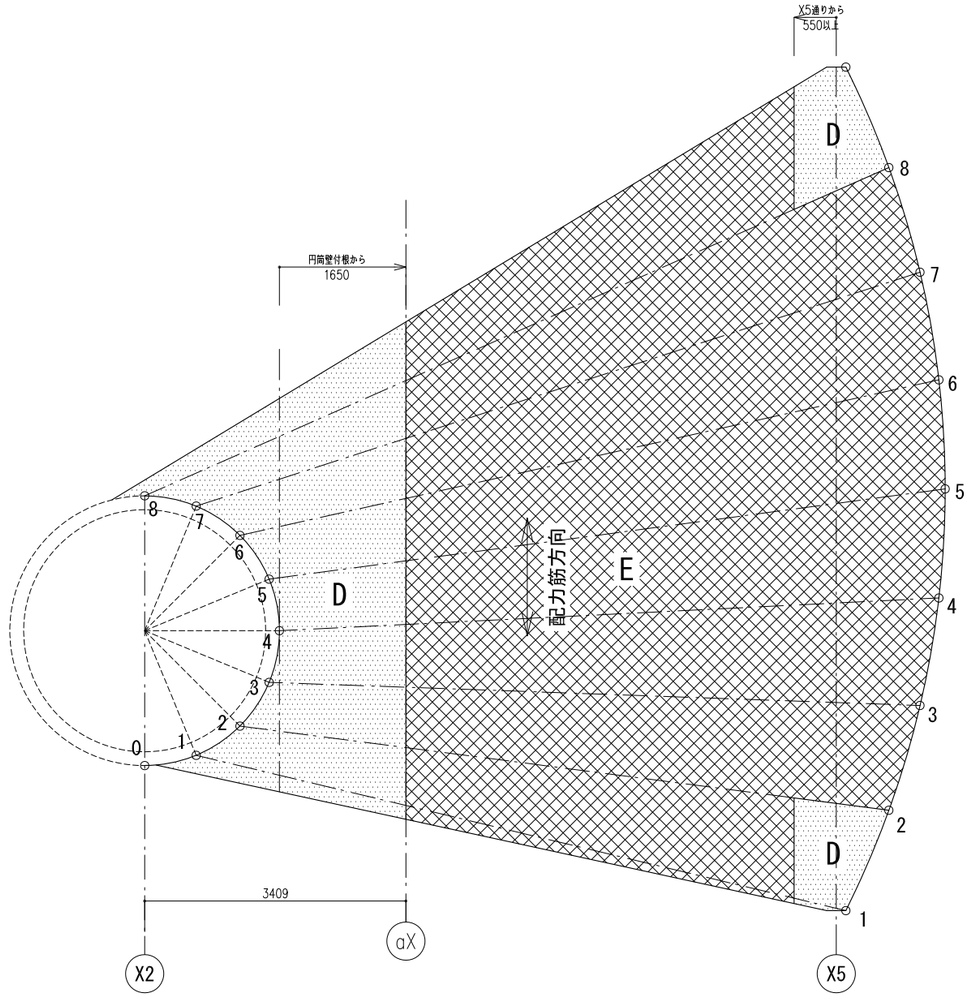
Date:　2026/01/06

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号

スラブのゾーニング設定手順

1。水上側：階段室円筒壁のうち、屋根スラブが接する半円を８分割し、基準点１～８を設定
2。水下側：円弧壁を８分割し、基準点１～８を設定
3。下図のように基準点の番号振りをし、同一番号を結ぶ補助線を設定する
　この補助線方向を“主筋方向”とする　“配力筋方向”はＹ方向としてよい
4。応力状態により、Ａ～Ｄのゾーニングをし、各部の指定配筋を行う



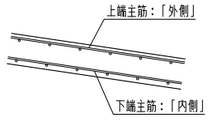




S1スラブ配筋リスト

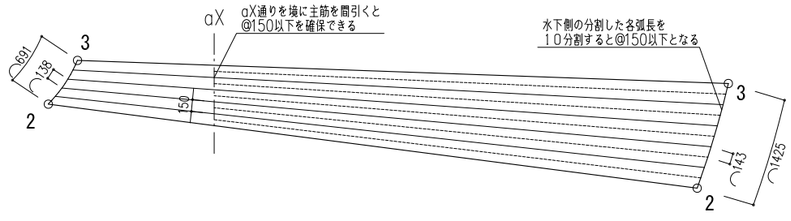
| ゾーン | 版厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 |
|---|---|---|---|---|
| A | 200 | 上端 | D22@150以下 | |
| | | 下端 | | |
| B | | 上端 | D16@150以下 | |
| | | 下端 | | |
| C | | 上端 | D10・D13交互@150以下 | |
| | | 下端 | | |
| D | | 上端 | | D16@100 |
| | | 下端 | | |
| E | | 上端 | | D13@200 |
| | | 下端 | | |

スラブ筋の継手は重ね継手とする

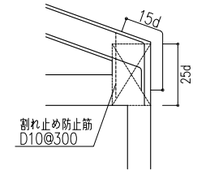
スラブ筋の内外関係




主筋の割付方法（案）

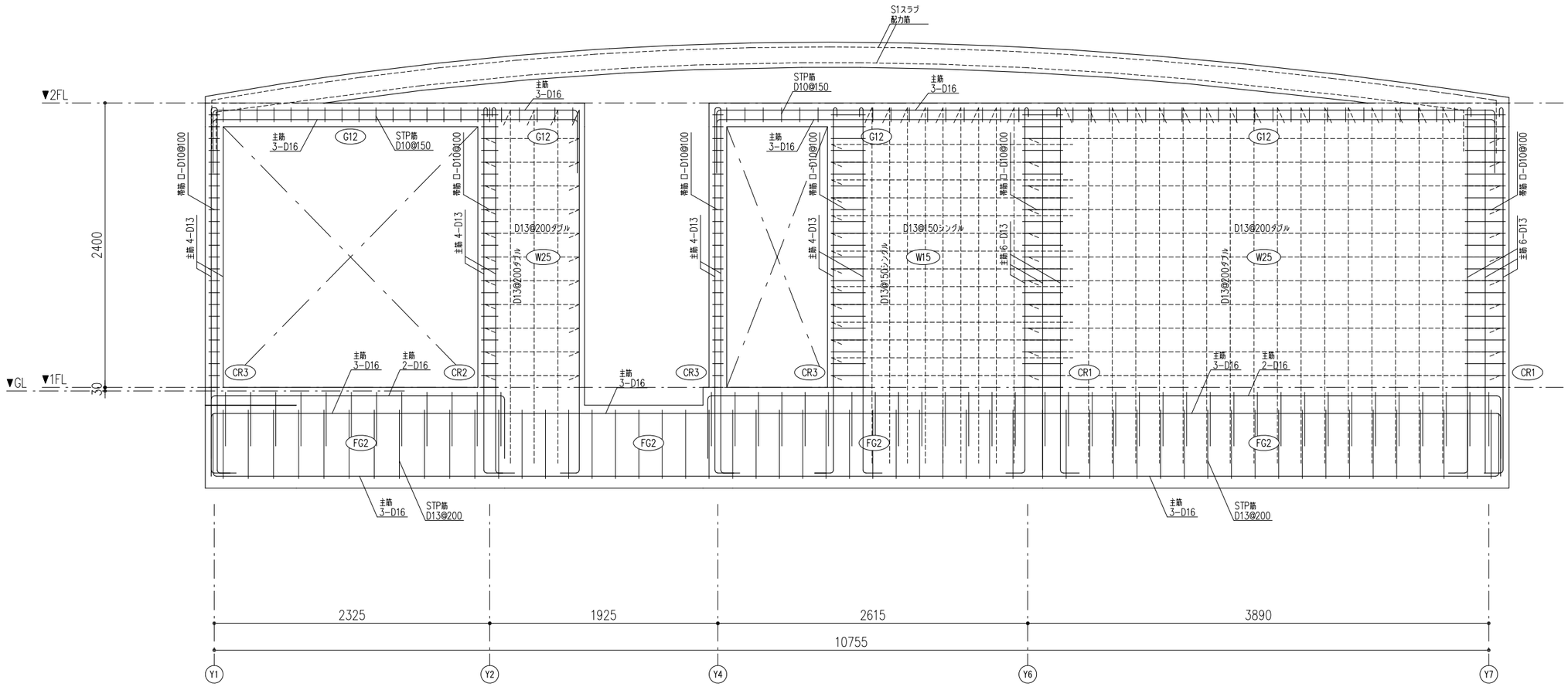



水下側定着要領




BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| STUDIO COCHI ARCHITECTS | Project: 萩村邸新築工事<br>The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263 | 一級建築士：　五十嵐 敏恭<br>一級建築士登録 第357184号<br>一級建築士事務所沖縄県知事登録 第161-3645号 | 〒901-0611<br>沖縄県南城市玉城字富里573-1<br>TEL/FAX：098-917-6390<br>E-mail：info@studiocochiarchitects.jp | Drawing Title:<br>断面リスト２ | Scale: | Drawing No.: S-13<br>Date:<br>2026/01/05 |




X5通り架構詳細図

STUDIO COCHI ARCHITECTS

Project: 萩村邸新築工事

The Seat: 今帰仁村字兼次810-208, 810-263

一級建築士: 五十嵐 敏恭
一級建築士登録 第357184号
一級建築士事務所沖縄県知事登録
第161-3645号

〒901-0611
沖縄県南城市玉城字富里573-1
TEL/FAX：098-917-6390
E-mail：info@studiocochiarchitects.jp

Drawing Title: 架構群細図

Scale:

Drawing No.: S-14

Date: 2026/01/06

BUREAU VERITAS JAPAN CO.,LTD.

構造設計 高田 雅之 一級建築士登録 第343121号